

今年の山うどの出来を競い合う、第16回山うど共進会が2月21日に行われ、管内農家自慢の山うど55点が出展される中、畑山悦雄さん（二ツ井町種）が最優秀賞の全農秋田県本部長賞に選ばれました。

今年度は株や芽の大きさは良好でしたが、掘り取りや伏せ込み時期に悪天候や低温が続き、株の充実度不足や生育遅れも見られました。しかし生産者の管理徹底により、今年度は数量・販売高ともに前年以上となる見込みです。

○優秀賞・佐藤幸雄さん（二ツ井町富根）
○優秀賞・藤田清樹さん（二ツ井町梅内）



畑山悦雄さんの山うどが、最優秀賞を受賞
収穫期を迎えた白神山うどの、出来を競い合う



▲ハカマや肌の色、揃いなどを審査した

長年JA信用事業に貢献してきた功労者として受賞
JAバンク全国大会で、当JA小林常務が表彰を受ける



▲表彰を受ける小林義昌金融共済事業本部長

各県域で優れた業績をあげたJAと、長年JA信用事業に貢献してきた功労者を表彰する、第13回JAバンク全国大会が2月13日に東京都内で開催されました。

当JAからは功労者として、小林義昌金融共済事業本部長が表彰されました。小林常務は、長年にわたり系統信用事業の発展に務め、当JAの金融共済部門の最高責任者として尽力されています。また大会では、農業の担い手を支援し最も信頼される農業メインバンクとして機能強化などが満場一致で採択されました。



藤里町が特産品化を進めている、『白神りんどう』の実績検討会が2月19日に開催され、平成25年度の実績などを協議しました。

白神りんどうは現在6農家が2.5haを栽培し、次年度は3haに増加します。平成25年度は春先の低温や夏場の集中豪雨と長雨などで、生育に影響が見られましたが、販売額は約2,200万円と、前年を大きく上回る結果となりました。市場関係者は「白神りんどうの品質は、県内でもトップクラス。今後は需要期の出荷量増加などを願っています」と期待を話しました。



平成26年度は、販売高2,600万円超えを目指す
『白神りんどう』の産地拡大に向け、実績検討会を開催



▲秋田生花市場の嶋田氏が情勢を報告

